# 空知川

平尾　安子

（一）

朝もやに包まれし、空知川
その川面は見えず、唯、流るる
水の音が、こだまする
いにしえの、語り部よ
今日は何を語る

眩しく光が反射されし、空知川
その川面は見えず、唯、怪しく
陽炎が、踊る
映るは、夢か幻か
今日は何を映す

紅葉が絵画のごとく写されし、空知川
その川面は見えず、唯、万華鏡を
覗くみたいに、怪しく漂う
落葉が、夢を抱き
大海に、向かって流れゆく

（二）

雪に包まれし、空知川
その川面は見えず、唯、その上を
うさぎが、走りぬけてゆく
白き使者よ
私の便り、中味は何か

四季折々の風景の中の君よ
或る時は荒ら荒らしく
或る時は静寂に流れゆく
雨上がりには、虹の橋を掛けて貰い
夜空に、星が輝く時
星達は、川面に降りて水遊び
永遠に、北の大地を
流れゆく、空知川だから、だから、私よ、今は、泣くだけ泣くといい。無垢な子供
にもどって。

平尾　安子
昭和二十年生まれ　六十八歳
無職（主婦）
北海道芦別市上芦別町在住